

# 第39回 県下小中学生剣道基本競演大会 試合要領

## 1 試合内容

- (1) 小学生の部・中学生の部ともに団体試合とする。
- (2) 小中学生ごとに予選リーグ、決勝トーナメントを行い順位を決定する。
- (3) 予選リーグでは、切り返し、打ち込み稽古を先鋒から順に両チーム同時に行い、個人間の勝敗は判定とし、チーム間の勝敗は勝者数法により決定する。
- (4) 予選リーグでの試合方法は下記のとおりとする。なお、小中学生ともに、主審の合図により先鋒の選手から切り返し、打ち込み稽古を下記のとおり続けて行うが、元立ちの順番は次のとおりとする。

①大将・②先鋒・③次鋒・④中堅・⑤副将とする。

ア) 切り返し・・・正面打ち→前進して左右面4本、後退して左右5本→正面打ち、以上2回繰り返す。

イ) 打ち込み掛かり稽古・・・初めに指定した打突を行いその後、自由打突とする。指定する打突順は次のとおりとする。

①正面 ②小手 ③小手→面 ④小手→面→胴

⑤面→体当り→退面 ⑥小手→面→体当り→退面

以上を1回行い、その後は元立ちが与える打突の機会をとらえて打ち込んで行く。

※ 切り返し終了が後、引き続き打ち込み稽古に入る。(元に戻らない)

ウ) 時間は、切り返し、打ち込み稽古を含み小学生は50秒、中学生は60秒とする。(各コートの時計係が計時を行う)

- (5) 決勝トーナメントは、試合時間3分、3本勝負による対試合を行い、勝者数法によりチーム間の勝負を決定する。なお、試合時間内に勝敗が決定しない場合は引き分けとする。勝者数、取得本数とも同数の場合には、任意の代表による代表戦を、試合時間3分、1本勝負により行い勝敗を決定する。時間内に勝敗が決定しない場合には、時間を区切らず延長戦を行い勝敗を決定する。

## 2 予選リーグ試合及び審判要領

- (1) 試合開始及び終了時の相互の礼は選手全員が面、小手をつけ、竹刀を持って行う。
- (2) 試合の開始は、9歩の間合いで立礼をした後、開始位置で蹲踞し主審の「始め」の号令により切り返し、打ち込み稽古を行う。
- (3) 主審の「止め」の宣告により打ち込み稽古を終了し、立って構えたまま判定を待つ。
- (4) 勝敗は、切り返し、打ち込み稽古の総合判定とする。(判定基準は下記のとおりとする)
- (5) 審判員は主審の「判定」の宣告で、勝者の紅白いずれかを挙げる。
- (6) 主審は勝旗を確認し、「勝負あり」と宣告する。(判定に引き分けは認めない)
- (7) 補員との交代は認めるが、いったん交代した選手の再出場は認めない。

### 3 予選リーグ判定の基準

\*正しい礼法・着装等ができているか。

\*充実した氣勢で身体を大きく使い、正しく、速く、気剣体一致の打ち方であるか。  
尚、詳細は次のとおり。

#### (1) 切り返し

ア) 竹刀の振り方は正しいか。

イ) 足の運びは正しいか。(退き足が歩足にならないか)

ウ) 左右面を打つ角度が約45度になっているか。

エ) 「正面打ち」の時、一足一刀の間合いから打っているか。

オ) 竹刀の打突部で打突部位を正しく打っているか。

カ) 「左右面打ち」の時、左こぶしが正中線を通り、相手の見える所まで上がっているか。

キ) 「正面打ち」の時、両腕が自然に伸び、左こぶしが中心(みずおち)に納まっているか。

ク) 最後まで気合いと体勢が崩れないか。

#### (2) 打ち込み稽古

ア) 足さばきが正しいか。

イ) 技に適した足さばきができているか。

ウ) 間合いの取り方が適切か。

エ) 技が正確(気剣体一致)であるか。

オ) 最後まで気合いと体勢が崩れないか。

カ) 残心(気構え、身構え)をとっているか。

#### (3) その他

竹刀の検査は行わないが、各監督は選手の竹刀の点検を各試合ごとに充分行うこと。特にビニールやセロテープを巻いた竹刀は使用させないこと。

### 4 決勝トーナメント試合要領

(1) 全日本剣道連盟試合・審判規則・同細則ならびに運営要領により行う。

(2) 試合は5人制、対試合。試合時間は3分、3本勝負。時間内に勝敗が決定しない場合は引き分け。

(3) 勝者数が同数の場合、取得本数の多いほうを勝ちとする。

(4) 取得本数も同数の場合には、任意の代表により代表戦を行う。代表戦の試合時間は3分、1本勝負。時間内に勝敗が決定しない場合は、時間を区切らずに延長戦を行い勝敗を決定する。

(5) 補員との交代は認めるが、いったん交代した選手の再出場は認めない。